

牛久：学校周辺に見る自然

第32号 牛久二小

2012年10月7日発行

＜ 夏の終わりの動物たち ④その他の動物 ＞

牛久二小4年2組との「夏の終わりの生き物」観察。今回はハチやカメムシなど、①～③以外の仲間を紹介しましょう。



キツネノマゴの花みつを吸いに来た、キンケハラナガツチバチのオス。

キツネノマゴ（キツネノマゴ科の一年草）に、キンケハラナガツチバチのオスが花みつを吸いにやってきました。長い腹部、長い触角と、胸部の赤茶色の毛が特徴。「金毛に腹長のツチバチ科」ということのでついた名なのではと思いますが、特徴をよくとらえていると思います。科名のツチバチ（土蜂）は、メスが土中のコガネムシ類の幼虫に産卵し、これを食べてハチの幼虫が成長し土中でさなぎになることからついた名ようです。



土を固めて鈴のような形の巣をつくるスズバチ。 巣の写真は、2010.9.29牛久二中。

こちらは、ドロバチ科の**スズバチ**。土を固めて写真のような巣をつくります。この中にはさらに、土で固めた幼虫室が十数個入っており、幼虫室にはハチの卵が一つずつ産みつけられたガの幼虫がまっているそうです。スズバチ（鈴蜂）という名は、巣の形が鈴に似ているところからついたようです。



次は、カメムシ。マメ類の害虫で、**ホシハラビロヘリカメムシ**。前翅に一對の黒い点があり、腹部がやや幅広くへりが突き出ていることからついた名でしょう。近くにはマメ科のフジやクズ、ハナズオウがあったので、そこに来ていたのだと思います。

マメ科の害虫、ホシハラビロヘリカメムシ。



桜の幹に集まる、ヨコヅナサシガメの幼虫。ここで、集団越冬するのだろうか？

こちらのグロテスクなカメムシは、おなじみのヨコヅナサシガメ^{ようちゆう}の幼虫^{だっぴ}です。脱皮直後の幼虫や羽化したては体全体がまっ赤ですが、外骨格が固くなってくると黒くなっていきます。桜の幹のくぼみに集団^{えつどう}で越冬するので、よく桜の害虫とまちがえられますが、じつは毛虫などの昆虫^{こうぶん}に口吻を突き刺して、体液を吸って生きる益虫^{えきちゆう}なのです。ただし、つかまえたりしようとすると口吻で刺されま^{こうぶん}すので、気をつけましょう。



アブラゼミの抜けがら。

こちらにも広い意味ではカメムシの仲間(カメムシ目)の**アブラゼミ**。ただし抜けがら^{ぬけがら}です。抜けがらはミンミンゼミとよく似ていますが、触角(しよっかく)のつけ根から3番目の節が2番目の1.5倍くらいある(ミンミンゼミでは同じくらい)ので区別できます。セミの抜けがら調べは、夏休みの自由研究ではよくやられるテーマですね。長い夏休みでしかできないことです。セミでなくても、何か一つテーマを決めて調べてみるのもおもしろいですよ。ところで、セミは羽化^{うか}してからの寿命^{じゆみよう}が短いといわれますが、アブラゼミの場合、産卵から卵が孵化^{ふか}するまでに約1年。その後土の中で5年ほど幼虫で過ごし、羽化すると2~3週間で死んでしまうようです。本来の寿命はもっと長く、夏の暑さ^{てんでき}や天敵の鳥などに食べられるため、短くなるようです。



ツマグロオオヨコバイ。

こちらにもカメムシ目の**ツマグロオオヨコバイ**。ツマグロヨコバイはイネの害虫として知られますが、こちらはクワやブドウなどいろいろな植物の汁を吸い、成虫で越冬するそうです(ツマグロヨコバイは終齢^{しゆうれい}幼虫で越冬)。体はツマグロヨコバイの倍あり、頭部と胸部の背側に黒い点が6個あるのが特徴。



カマキリの脱皮^{だっぴ}がらを見つけてくれたお友だちもいました。白くきれいで、特に複眼^{ふくがん}の部分は透^すき通^きっていて、ガラスのようでした。カマキリは、その姿や色からバッタの仲間と思われがちですが、親せき関係は遠く、肉食性^{ぜんし}です。前肢が鎌状に変化したハンターなのです。

← カマキリの白い脱皮がら。

鮮^{あざやか}やかなサルスベリの花に、ハチなどの虫が来ていないか一生懸命^{いっしょうけんめい}に探していたお友だちもいましたが、花を食べている甲虫^{こうちゅう}を見つけました。マメコガネです。その名の通り、マメ類の害虫で、アメリカでは「ジャパニーズビートル」とよばれ恐^{おそれ}れられています。幼虫はマメ科植物の根を、成虫は同じくマメ科植物の葉を食べることで知られていますが、観察しているとその他の植物の葉や花もむしゃむしゃと食べています。



↑ サルスベリの花を食べるマメコガネ。

「宮内先生～、クモの親子かなあ？」と呼ばれ行ってみると、ジョロウグモでした。大きく鮮やかなもようをしているのがメスですが、小さくてじみな方は子どもではなく大人のオスなのです。こんなにも大きさに差^あがあるのはおもしろいですね。オスは大人になると、メスの網^{あみ}に入りこんで居候^{いぞうろう}し、メスが脱皮して成体になるときに交尾をします。うまくタイミングが合わなくて、メスに食べられてしまうこともあるようです。

その他の動物ではヤケヤスデ、ニホントカゲを見つけましたね。ヤスデの仲間はムカデと似てあしがたくさんありますが、ムカデの足は一つの体節^{たいせつ}から1対ずつ出ているのに対し、ヤスデでは2対ずつ出ているので見分けられます。ニホントカゲは大人になると体色^{おうちよく}が黄褐色になります。今回たくさん見つけたのはすべて幼体^{ようたい}のようで、黒い体^{たてすじ}に縦筋もよう、青い尾^おが特徴でした。次回は秋。楽しみにしています。 【理科支援員 宮内】

← ジョロウグモのオス（上）とメス（下）。



ヤケヤスデ（左）とニホントカゲの幼体（中）。右の穴のあいた葉は、誰が食べたのかな？